

国立大学法人島根大学役員会（第412回）＜議事要録＞

日 時 令和6年9月17日（火） 14:00 ～ 15:20

場 所 本部棟5階 大会議室（TEAMS 利用）

出席者 大谷学長，増永理事，松崎理事，金山理事，椎名理事，大川理事，宮脇理事，上野理事
オブザーバー 吉田監事，栗原監事

〔陪席：事務局次長，企画部長，研究・地方創生部長，教育・学生支援部長，総務部長，
財務部長，松江地区学部等事務部長，医学部事務部長，監査室長事務取扱〕

議決事項1 国立大学法人島根大学業務方法書の変更について

- 増永理事から資料に基づき，国立大学法人島根大学業務方法書の変更について説明があり，審議の結果，原案どおり議決された。

議決事項2 支援基金規程の一部改正について

- 金山理事から資料に基づき，支援基金規程の一部改正について説明があった。
- 栗原監事から，税額控除対象事業として新たに追加となった事業について，本学において該当する取組はあるのかとの質問があり，金山理事から，現時点で該当する事業はないが，今後，文部科学省にも確認しながら検討していきたいとの回答があった。
- 審議の結果，原案どおり議決された。

議決事項3 国立大学法人島根大学と独立行政法人中小企業基盤整備機構との包括的連携に関する協定の締結について

- 学長から資料に基づき，国立大学法人島根大学と独立行政法人中小企業基盤整備機構との包括的連携に関する協定の締結について説明があった。
- 宮脇理事から，日本では外国に比べてエンジェル投資家が少なく，起業へのハードルが高いことから，起業を目指す人が安心してチャレンジできるよう大学と民間が一体となって環境や仕組みを整えることが重要であるとの意見があった。
- 増永理事から，大学における支援と合わせて，地域の個人投資家を取り込み，起業したい学生を応援する仕組み作りができないかとの発言があり，学長から，起業へのやる気を持った学生を増やし，小さな規模からでも応援したいと考える市民と結び付ける取組を始めてはどうかとの意見があった。
- 松崎理事から，起業に興味のある学生が集まり情報交換を行うなかで，そこから実際に学生向けベンチャーに応募する学生はいるため，学生が自身の考えを提案できる場を多く持てるようにしていく必要があるとの発言があった。
- 宮脇理事から，以前，本学の学生とベンチャーについて意見交換した際に県内出身者が少なかったことから，より多くの県内出身者に関心を持ってもらい，地域に根差し，地域の発展に貢献できる人材を育成していくことが重要であるとの意見があった。
- 審議の結果，原案どおり議決された。

協議事項1 定期モニタリングの実施について（入試出題ミスの防止体制）

- 松崎理事から資料に基づき，定期モニタリングの実施について（入試出題ミスの防止体制）説明があった。
- 大川理事から，今後の課題として挙げている報告が遅れたことへの対策について，マニュアルに規定しているのかとの質問があり，松崎理事から，注意点が分かり易くなるよう更に工夫

したいとの回答があった。

- 栗原監事から、入試問題の作成及び作成後のチェックをアウトソーシングする考えはないかとの質問があり、松崎理事から、問題内容の特殊性からアウトソーシングに適さないものもあり、全てをアウトソーシングするのは難しいと考えるとの回答があった。
- 椎名理事から、マニュアルを作成する際には、入試問題のチェックについて具体的な回数を規定する他、多重チェックの方法を明確にする等、曖昧な表現を除いたうえで形骸化させないことが重要であるとの発言があった。
- 学長から、マニュアルを整備することは重要だが、それにも増して、試験開始とともに試験問題を丁寧にチェックする、ミスがあればすぐに連絡するといった基本を徹底することが重要であるとの発言があった。

報告事項1 島根大学の大学院人材育成機能強化の方向性について

- 増永理事から資料に基づき、島根大学の大学院人材育成機能強化の方向性について報告があった。
- 宮脇理事から、大学院で学ぶことによって専門的知識を高めるだけでなく、VUCA時代と呼ばれる変化が激しい時代に、柔軟に活躍できるリベラルアーツを持った学生が増えることを期待しているとの発言があった。

報告事項2 IR分析に係る基礎データの報告について

- 松崎理事から資料に基づき、IR分析に係る基礎データの報告について報告があった。
- 椎名理事から、医学部の自学習時間が減少している点について、医師の働き方改革の面からも要因分析が必要であるとの意見があり、松崎理事から、要因分析を進めたいとの発言があった。

報告事項3 令和5事業年度財務諸表の承認について

- 大川理事から資料に基づき、令和5事業年度財務諸表の承認について報告があった。

報告事項4 令和7年度概算要求について

- 大川理事から資料に基づき、令和7年度概算要求について報告があった。
- 栗原監事から、先端マテリアル研究関連の要求に関して、教育研究組織改革分と基盤的設備等整備分への本学要求額に対し、基盤的設備等整備分のみが認められたことについて支障はないか、また、今回の概算要求を島根大学はどう評価しているのかとの質問があり、大川理事から、基盤的設備等整備分と教育研究組織改革分は分けて考える必要があり、3D積層技術を核とした学術研究成果を具現化するためのワンストップステーション構築に向けた基盤的設備として必要な機器が、要求事項に認められたものと考えているとの回答があった。

続けて学長から、基盤的設備等整備分として要求した機器については、現在申請している地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の鍵となる設備であり、要求額が要求事項に認められたことについて前向きに捉えているとの発言があった。

報告事項5 令和6年度における国立大学法人島根大学の中小企業者に関する契約の方針について

- 大川理事から資料に基づき、令和6年度における国立大学法人島根大学の中小企業者に関する契約の方針について報告があった。

報告事項6 全学委員会の議事報告について

- 資料に基づき、書面による報告があった。

その他

- 上野理事から、入試出題ミスの防止体制に関して、合否に影響する出題ミスが発生した場合に、対外的な公表及び受験者への対応について現状の体制で問題ないか検証する必要があるとの意見があった。